

校訓・教育目標

校 訓 : 知徳 師弟和楽 誠心

教育目標(実践にぬふあ星)

【島と海を愛し、共生・協働じりつできるウタマ】

(知) 自ら学ぶウタマ

(徳) 心豊かなウタマ

(体) たくましく、ねばり強いウタマ※「ウタマ」は島の言葉で「子ども」を表す

1 教育理念

本校の教育は、日本国憲法、教育基本法等の教育関係法令、学習指導要領及び県教育振興基本計画、県教育委員会施策及び本町の教育推進計画や学校教育の努力点等を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成と生涯学習の基盤をつくるため、一人一人の子どもを尊重し、家庭・地域社会との連携を重視しながら、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成に取り組み、変化の激しい社会の中にあっても、それぞれの生活地において自己の能力を最大限に発揮し、強くたくましくじりつ(自立・自律)できるウタマ(児童・生徒)の育成をめざす。

2 実践方針

<学校経営について>

- 学校経営にあたっては、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領等の教育関係法令、県及び町の教育施策等を踏まえ、本校における教育課題を解決する学校経営をめざす。
- 計画・実践・評価・改善(PDCA)のマネジメントサイクルを機能させ、学校の課題を明確にしその解決を図る学校経営をめざす。
- 「15歳の春」を、じりつ(自立・自律)に向けた第一歩と捉え、それに向けて学校教育目標である「島と海を愛し、共生・協働じりつできるウタマ」を実践にぬふあ星とした学校経営をめざす。

<教育課程の編成について>

- 学校教育目標の達成に向け、生きる力の土台である知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成をめざす教育課程を編成する。
- 「確かな学力」を保障するための授業時数については、標準時数を確保するとともに、指導内容の習得に必要な時数及びそれに伴う補習時間を十分に確保できるよう編成する。
- 幼小中併置校の良さを生かし、連携及び系統性を重視した創意工夫、特色のある教育課程を編成する。
- 児童生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、主体性や創造性に富む児童生徒の育成を図る教育課程を編成する。

<職員組織体制について>

- 職員一人一人が学校経営参画を自覚し、一致協力して経営に参画する職員体制を構築する。
- 教育公務員として、服務規律を遵守するために職員相互の声かけを大切にする。
- 児童生徒の安全指導については、全職員が常に危機管理意識を持ち、毎月の安全点検を確実に実施し児童生徒の安全及び防犯意識を育む。

<校務分掌について>

- 学校の教育目標の達成をめざし、教育活動を効果的に推進するため適正かつ公平で調和のとれた分掌を割り振る。

○校務を円滑に運用していくために、教務部、指導部、管理部、事務部等を置く。

○小規模・併置校である本校においては、職員構成上、複雑多岐にわたる分掌を担うことになるがその事を十分認識し、校務を分担する。

<保・幼・小・中連携について>

○保育所、幼稚園と小中学校の学校行事で、教育的な価値、教育効果を考慮に入れ、行事等、積極的な連携を推進する。

○児童・生徒による「読み聞かせ」等を行い、幼児と児童・生徒の交流、相互理解を推進する。

<保護者・地域連携について>

○学校運営にあたっては、保護者、地域との相互理解を大切にし、信頼関係のもと連携・協働できる開かれた学校づくりをめざす。

○学校の教育活動の様子を「学校便り」「学推便り」「学級便り」「保健便り」等において適時発信する。

○島を愛する心の育成等の徳育や・たくましい体の育成等の体育の分野について、地域の自然、人材及び伝統文化・芸能等の積極的、効果的な活用をめざす。

○開かれた学校とは、学校の施設の開放のみでなく、「家庭や地域社会とともに、子どもを育てる場としての学校」という考えを重視した取組を推進する。

○学校評議員会を開催するなど、広く地域住民の意向を把握し、学校運営に反映させる。